

設計・計画部門


 みなみの たかや
南野 剛也

生年月日 1982年 6 月大阪生まれ
 最終学歴 2008年神戸大学大学院自然科学研究科建築学専攻前期博士課程修了
 業務経歴 2008年㈱大林組入社
 現在、大阪本店建築事業部建築設計部主任
 ●担当した主なプロジェクト
 2010年 近畿産業信用金組合生野支店
 2013年 神戸製鋼所本社ビル
 2015年 田辺三菱製薬本社ビル
 2016年 履正社箕面森町専門学校
 ●受賞
 第2回神戸市都市デザイン賞

■青年技術者のことば

一都市のなかの建築として一建築の設計を行うことは、都市の新しいカタチを創り出すこと。建築は都市の一部となり、数十年、時には百年以上もの間、人の記憶、まちの記憶に刻まれる。私が普段から意識していることである。都市の風景としてふさわしい建築とは何なのか。

- ・それぞれの建物がもつ敷地のコンテクストを読み解き、その敷地でしか持ちえない個性を持たせる。
- ・その時代に要求される機能性を満足しながら、将来も見据えた計画を行う。
- ・ファサードだけでなく内装からディテールに至るまで、全てにおいて違和感のないデザインを行う。
- ・まちの一部となりまちに新しい個性と機能を付加する。

紙の上に引く1本の線にもこれらの想いを込め建築と向かい合っている。

■すいせん者

岩下博美
 (株)大林組 大阪本店 建築事業部
 建築設計部 部長



神戸製鋼所本社ビル

敷地は阪神淡路大震災によって同社工場が壊滅的な被害を受けた場所である。その土地に新しい本社ビルを建設するプロジェクトであった。

構造的な安全性はもちろんのこと、浸水被害も想定し、重要設備室は全て2階以上に配置した。1階の床レベルを上げることでさらなる安全性にも配慮し、それにより周囲より1.5m程度高くなった地盤には緑を設けた。人々がより緑を身近に感地することで、本社ビルという大きなボリュームの緩衝帯の役割をはたすことでまちに対する安心を実現できたと考えている。

環境配慮の面では、約8度の角度で取り付けした傾斜窓と、サッシから持ち出した小庇により外部から室内への日射熱負荷を低減している。この傾斜窓と小庇は繊細かつ陰影のある表情をファサードに出ささせ、外装のデザインにも大きな役割を果たしており、機能とデザインの両立を果たしている。

履正社スポーツ専門学校
北大阪校

このプロジェクトの特徴は周囲を囲む広大な自然である。また、数期に分けて整備を行う計画であったため、将来を見据えたマスタープランを立案することが当初取り組んだことである。

その中で校舎はどのような形態がふさわしいのかの検討を重ねた。周辺の山波の稜線に沿って建物高さを抑え、この土地の樹木、土に調和するような外装デザインとすることでこの土地にとけ込む違和感のない校舎となったと考えている。

一方で学生が使用する講義室、トレーニングルーム、食堂などについては室内環境についても配慮した。直射日光の入らない北側に講義室を配置し、熱負荷を低減しながら、間接光によって自然光による照度が確保できる計画とし、学びの場に最適な環境を創り出すよう配慮した。